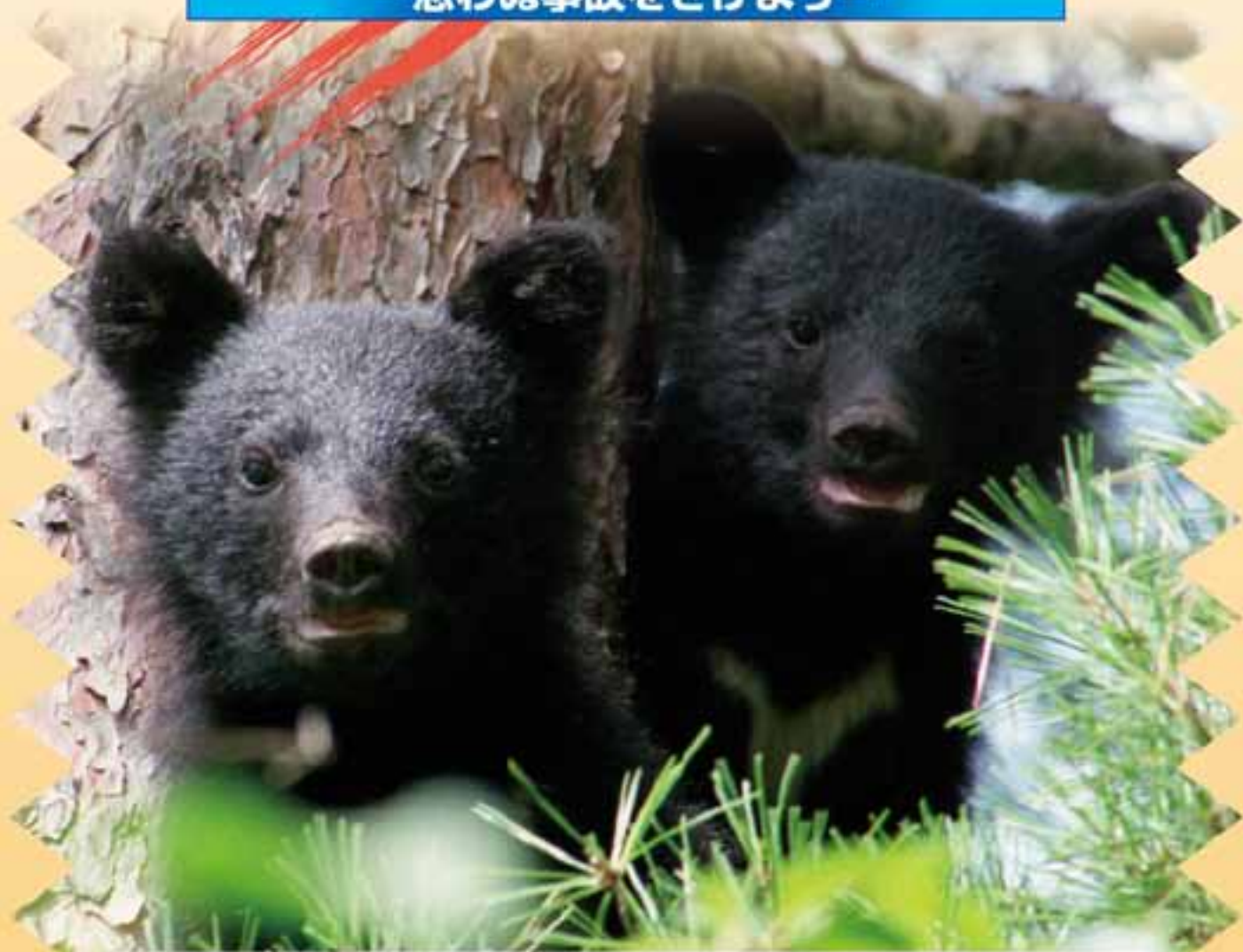


クマに注意!

— 思わぬ事故をさけよう —



ツキノワグマとヒグマは日本を代表する動物です。アニメに出てくるクマはユーモラスでやさしそうです。でも、本物のクマは力が強く、突然出会うと攻撃することもあります。この冊子では、クマに会わないための工夫、クマに出会ったときの注意事項を紹介します。



クマはあぶない動物！



クマ（ツキノワグマとヒグマ）は、するどいツメと大きな歯を持っていて、
時速 40 キロメートルで走ることもできます。突然の出会いで、引っかけ
られたり押し倒されたりすると大けがをします。近くにクマの生息が確認さ
れている地域では次のことに注意しましょう。



一人で行動しないで、集団で登下校する。



クマの生息する場所に近づかない。



たとえば…このような事故がありました。

- 平成 13 年 6 月：岩手県での事例
→中学生が自転車ごと押し倒され負傷
- 平成 18 年 9 月：長野県での事例
→通学路わきから突然出てきたクマと遭遇し中学生が負傷
- 平成 22 年 10 月：山形県長井市での事例
→市街地に出没したクマが中学校構内に入り込み、職員が負傷
- 平成 22 年 10 月：山形県飯豊町での事例
→自宅玄関を出た際にクマと遭遇し負傷
- 平成 23 年 10 月：山形県新庄市での事例
→自宅作業小屋で作業中にクマと遭遇し負傷
- 平成 24 年 10 月：川西町下小松での事例
→遊歩道の草刈作業中にクマと遭遇し負傷



通学路や山でのクマとの 出合いをさけるために!!



クマとの出合いを防ぐためには、クマについて知ることが重要です。
次のような点に注意してください。

●クマのことを知る

- ・クマの生態、行動などをよく知りましょう。
- ・地域の自然環境、野生動物に関心を持ちましょう。

●クマの出没情報に気をつける

- ・出没情報のあったところにはなるべく近づかない。
- ・早朝・夜間は出会う可能性が高くなるので注意しましょう。

●クマに自分の存在を知らせる

- ・クマ鈴やラジオなど音の出るもので存在を知らせましょう。
- ・クマに出会う恐れのあるところでは走るのはいけません。

●クマの隠れ場所になりそうなところに注意する

- ・見通しの悪いところや沢など狭いところでは注意しましょう。
- ・山とつながっている林や川沿いのやぶでも注意しましょう。



このような場所ではクマとの出合いを避けるよう、
特に注意しましょう。





もしクマに出会ったら!!



注意していても、クマに出会ってしまうかもしれません。
もしクマに出会ったら次のように行動してください。

●遠くにクマがいることに気がついたとき

- ・落ち着いてその場から離れましょう。
- ・クマをおどろかすので、大声を出したり、走って逃げるのはやめましょう。写真をとるためフラッシュを使うのも止めましょう。

●近くにクマがいることに気がついたとき

- ・落ち着いてゆっくりとその場から離れましょう。その際、クマに背を向けずに、クマを見ながら、ゆっくり落ち着いて後退してください。

●すぐ近くで出会ったとき

- ・あわてた人の急な動作に驚いて攻撃してくることがあるので、冷静に、あわてず、クマが立ち去ってからその場を離れましょう。
- ・突発的におそわれたら、両腕で顔や頭をガードして、大けがを避けましょう。

●子グマと出会ったとき

- ・近くに親グマが居るかも知れませんが、落ち着いてゆっくりとその場から離れましょう。絶対に子グマを拾わないでください。

※落ち着いてその場から離れましょう





クマをおびきよせないために！！

クマによる被害を防ぐには、クマを人里に近づかせないことが重要です。
地域で協力して次のようなことを行うことが大事です。

●クマが利用しにくい環境を作る

- ・通学路沿いの森で、見通しの悪い場所の草や、かん木（低い木など）の刈り払いをする。
- ・隠れ家となりそうな川沿いのやぶを除去する。

●クマの好物を取り除く

- ・収穫後の農産物、家庭の生ごみは深い穴に埋めるなど野外に放置しない。
- ・庭先のカキ、クリなどは放置しないで早めに取り取る。
- ・家の周囲でハチの巣を見つけたらなるべく早く取り去る。



台市町村の事例（長野県軽井沢町）
（クマが開けられない家庭ごみ収集ボックス）

●餌付けをしない・ゴミを放置しない

- ・人がおいしいものはクマもおいしい。
- ・クマを食品や生ごみでおびきよせない。
- ・キャンプ場や山林に生ごみなどを放置しない。



キャンプ場でのゴミ放置



遠足でのゴミ投げ捨て



家庭ゴミの放置



果実の放置

クマの生息地の近くでエサとなる家庭ゴミを捨てるなど、人のちょっとした不注意、不適切な行動がクマをおびきよせ、人身被害の発生など思わぬ結果をもたらすこととなります。十分注意しましょう。



クマの分布域

日本にはヒグマとツキノワグマが生息しています。ヒグマは北海道に、ツキノワグマは本州と四国の山地を生息地としています。昔は九州にもツキノワグマが生息していましたが、50年ほど前から生息は確認されていません。

ヒグマ

北海道の約半分の地域に生息しています。森林を主な生息地としますが、木の少ない原野にも出てくる場合があります。

ツキノワグマ

落葉広葉樹林のあるところを主な生息地としています。東北地方や中部地方では6割以上の地域に、関東、近畿、中国地方では3割程度の地域に、四国は限られた地域にだけ生息しています。



ヒグマ

(北海道に生息する)
体長：220cm～230cm
体重：150kg～250kg



ツキノワグマ

(本州と四国に生息する)
体長：110cm～150cm
体重：80～120kg

クマの生息する地域 (緑色の範囲)
第6回自然環境保全基礎調査(2004)



日本の森とクマ

日本の国土のおよそ4割にクマ（ヒグマ・ツキノワグマ）が生息しており、森林の生態系を構成する一員でもあります。生息地のほとんどは森林ですが、特にドングリ類が不作の年は食物を求めてクマの行動範囲は広がり、本来の生息地を離れ、人里近くに近づくことがあります。このときに人との出会い、農作物被害や林業被害などの問題を引き起こすことがあります。



かつて里山などの山林は人手をかけて管理されてきました。このことがクマなどの野生動物が人里に近づきにくくしていたと考えられています。しかし、現在では山村地域の過疎化や高齢化など、社会環境の変化により、里山や山林を手入れをする活動が減っています。

奥山から人里まで切れ目なく続く森林のなかで、奥山は自然に任せた豊かな環境に、人里近くの山林は積極的に利用するなど、人と動物のすみわけにつながるような取り組みが求められています。



クマの生態

クマは小さな音でも聞き分ける能力（聴覚）、イヌのようにわずかなニオイをかぎわける能力（嗅覚）をそなえた大型動物で、優れた運動能力をもっています。

- 木登り、穴ほりのために強い力と鋭いツメを持っています。
- 人より速く、時速 40km 以上で走ることができます。
- 水泳も得意で、木に登ることもできます。



12月～4月まで冬眠します
(地域や年により変わることもあります)



冬眠から覚めると山菜などを食べます



ツキノワグマと
人との関わり

冬
春
秋
夏



6月頃に繁殖期

秋になると木の実を
食べます

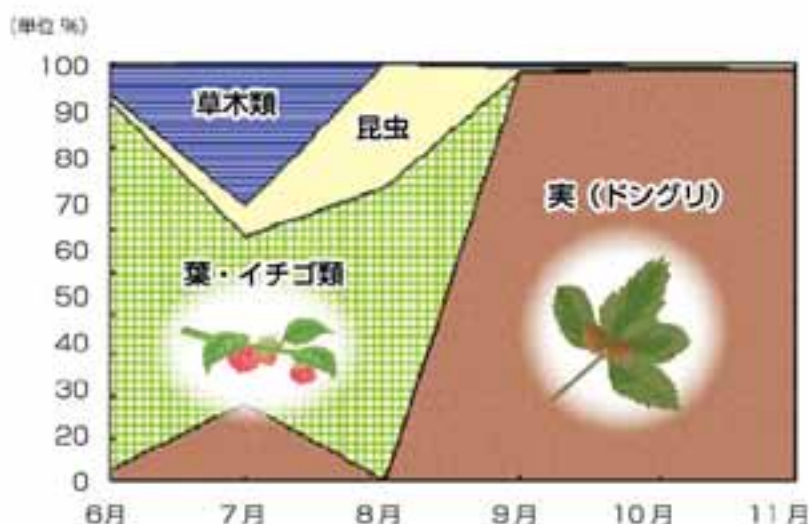


夏はハチミツや昆虫を
採って食べます



クマの食べ物と生息地

ツキノワグマの食物の9割以上は植物です。春には、芽吹いたブナの葉や山菜など、さまざまな植物を食べます。夏はアリやハチなどの昆虫を多く食べます。秋になると、ドングリ、クリなど木の実をたくさん食べるようになります。



● 落葉広葉樹林とドングリ ●

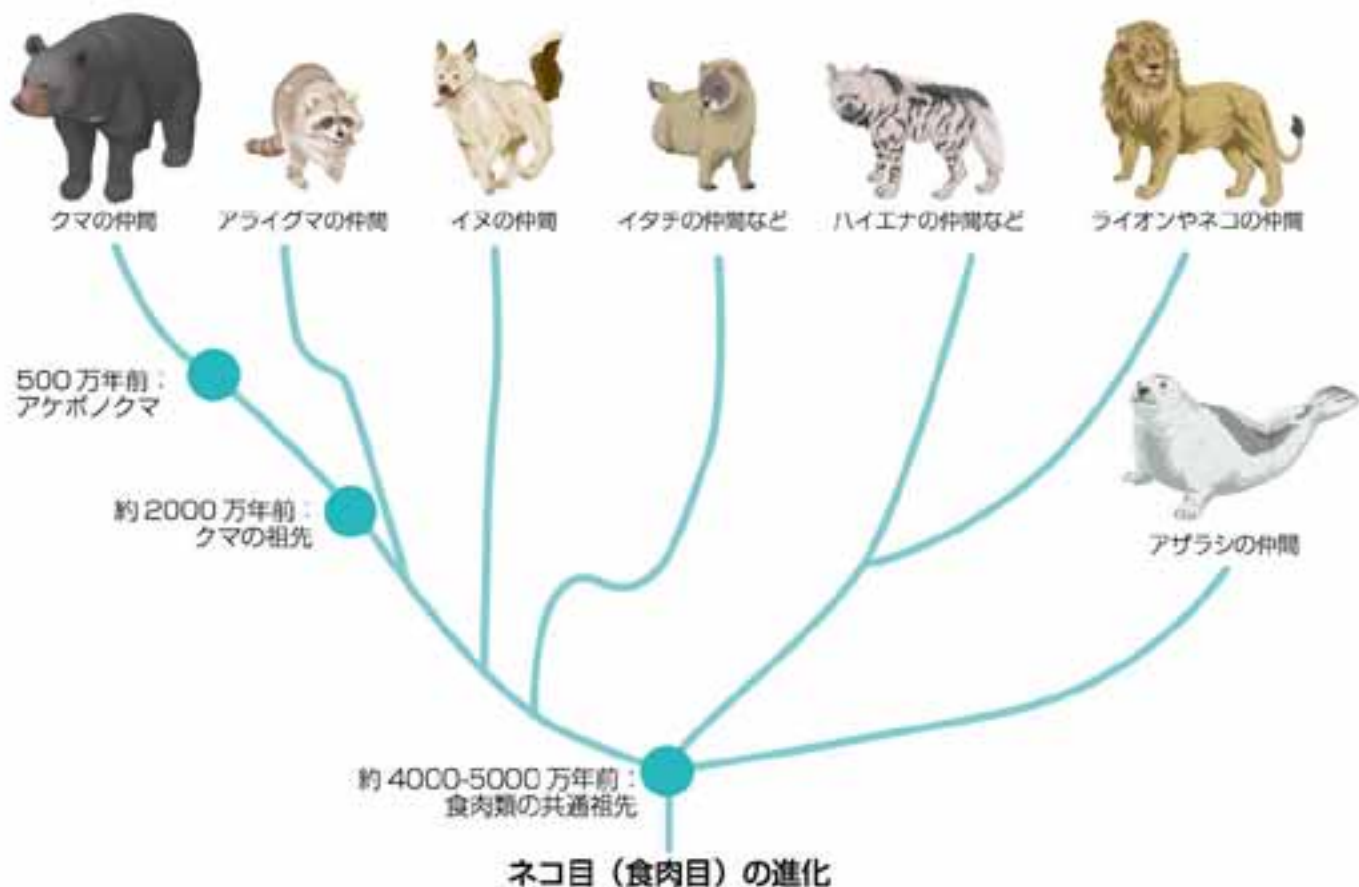
ツキノワグマがおもに生活するのは、落葉広葉樹林の森林です。そこに生育するブナ・コナラ・ミズナラなどの実(ドングリ)を餌としています。このような森林はツキノワグマにとって非常に重要な場所です。



クマの進化

クマはイヌやネコと同じネコ目（食肉目）の仲間ですが、2000万年ほど前から独自の進化をとげました。植物を食べるのに適した奥歯（臼歯）に変化しているのが大きな違いです。ジャイアントパンダもクマの仲間です。ネコ目には、ライオン、ハイエナ、アライグマ、アザラシなども含まれます。

クマの仲間は、ホッキョクグマを除いて主に森林地帯に生息しています。熱帯地方に生息する3種類のクマ（マレーグマ、ナマケグマ、メガネグマ）とジャイアントパンダ以外のクマは冬眠します（ただし、ホッキョクグマはメスだけが冬眠）。



クマの歯



ライオンの歯



クマの Q and A

Q クマは肉食動物ではないのですか？

A 肉食もしますが、植物質に偏った雑食性です。食肉類なので、大きな犬歯がありますが、臼歯（奥歯）は植物をすりつぶすのに適した形に変化しています。

Q クマの好物はドングリだけですか？

A ドングリは主に秋に実り、越冬前の栄養価が高いエサとして知られています。他の時期は沢沿いの草本や新芽、新葉、果実類など時期に合わせてさまざまなエサを食べています。またハチミツも大好物です。

Q クマはなぜ冬眠するのですか？

A ヒグマとツキノワグマは、秋に大量に食べて脂肪をため、エサの少ない冬は冬眠して過ごすように進化しました。一年中、果実や昆虫類が豊富な熱帯地方に生息するクマの仲間は冬眠しません。



Q クマは被害を出す動物なのになぜ保護するのですか？

A クマの生息地に近いところに住む人たちにとって、クマは恐ろしい存在です。でも、食べた植物の種をフンとして出すことで植物の繁殖を助けるなど、クマは生態系を支える役目をはたしています。クマがいる森は、他の多くの動物も生息できる大切な地域です。人里とクマ生息地の間にクマが立ち入りにくい場所を設けるなど、生活圏が重ならないように「すみわけ」を目指した研究や対策が始まっています。

Q クマをなぜ殺すのですか？

A 奥山の人々は、昔からクマを山からもたらされる食料として捕獲してきました。また、そこに住む人たちの命と財産を守るため、畑を荒らすクマなども捕獲されています。絶滅しないよう、生まれる子供の数以上は獲らないなどの制限を設ける必要があります。



Q クマにエサをやっているのですか？

A エサを与えると、それに慣れて人里はエサをくれる場所、人をエサの供給源と考えてしまいます。それは、農作物を荒らしたり、人をおそう危険なクマを作り出すことにつながることから、絶対にエサをやってはいけません。



キャンプ地でクマにエサを与える。このような行動は、自分だけでなく他の人にも危険をもたらすので、絶対にしてはいけません。

保護者の皆様へ

平成18年度は、ドングリ類の凶作等から人里近くに出没するクマが増えたため、全国で150名の死傷事故（うち5名が死亡）が起きました。事故の多くは、山菜やキノコ採りのためにクマの生息地に入った時に起きていますが、児童生徒の通学路など人里でも発生しています。

最近、通学路で発生した事故では、平成13年6月に岩手県内で、平成18年に長野県内で、中学生が通学途中でクマに襲われました。

また、近年、山形県内ではクマが市街地に出没する事例が発生しており、平成22年10月に長井市内（中学校構内に入り込む）及び飯豊町内で、平成23年10月に新庄市内で、住民などがクマと遭遇し負傷しました。これらの人身事故は、河川敷のやぶを伝って移動してきたクマによるものと考えられています。

また、平成24年度は、雪解けの遅れやドングリ類の凶作、また夏の厳しい暑さで山の水が少なくなったことなどから、クマが大量に人里へ出没しました。

それに伴い、農作物の被害も増加し、被害防止のためのクマの捕獲数は、計画を上回る事態となりました。そこで、同年秋の狩猟期は、クマの保護・管理の観点から関係者へ捕獲を自粛するようお願いしたところです。

この小冊子は、児童生徒が通学路や放課後にクマとの突然の出会いによる事故をなくすために、クマの生態や注意事項をまとめたものです。

保護者の皆様もお子さんと一緒にこの小冊子をご覧くださいとともに、地域で協力してクマを人里に近づけないなどの取組みを行っていただくようお願いします。

- ・緩衝帯整備：通学路等に接する山際のやぶを刈り払い、野生動物の隠れ場所を無くすとともに、人の痕跡を残し人間の活動領域であることを示す
- ・河川敷整備：河川敷のやぶを刈り払い、野生動物の隠れ場所を無くす

＊クマによる事故を防ぐためにより詳しく知りたい方は、環境省ホームページに掲載している「クマ類出沒対応マニュアル」を参考にしてください。（「クマ類出沒対応マニュアル」で検索してください）



環境省自然環境局野生生物課発行パンフレット「小学生向けクマに注意！～思わぬ事故を避けよう～」を参考に作成しました。